



①国指定史跡である日本最北端の前方後円墳、角塚古墳。蛇塚、塚の山とも言われる ②さよ姫が見分森から大蛇が住んだ止々井沼の向こうに見たという高山稲荷神社。付近に長者の屋敷があったという ③化粧坂の薬師清水。さよ姫がこの湧き水を目の見えない母につけると目が開いたという ④延喜式内社・止々井神社跡。止々井沼のほとりにあったと伝わる ⑤伝説を題材にした神楽の演目「高山」。さよ姫が大蛇と対峙する場面（平成7年南部神楽フェスティバル）



奥州遺産

——ときを越え

受け継がれるもの——

第100回

さよ姫伝説を旅する(前)

Ⅱ 水沢佐倉河／胆沢南都田 Ⅱ

「胆沢の高山に、かもん長者がおりました。その妻はとても欲深く、欲が高じて大蛇に化身し、毎年若い娘を贅に差し出すよう要求しました。ある年、『さよ』という名の娘が、贅として買われてきますが、さよ姫は法華經の功德をもって大蛇を成仏させ、改心した大蛇の力を借り、生き別れた母と再会するのでした」

神楽の演目にもなっている、かもん長者とさよ姫の物語。水沢佐倉河から胆沢南都田にかけては、伝説の名残をとどめる地名が数多く残されています。長者の住まいがあった「高山」、さよ姫が故郷を見分けた「見分森」、化粧を直した「化粧坂」、贅を供えるための櫓を組んだ「四ツ柱」、成仏した大蛇の角を埋めた「角塚」など。これらの伝説関連地を地図上に落としていくと…。

(続)

※奥州遺産第100回を記念した特別版として前・後の2回に分け掲載します

告 白